

# ノスタルジアと記憶, 時間



田上 恭子 (看護学部)

“過去は美化される”と言われることがありますが、心理学では、必ずしも過去の出来事が美化されるわけではなく、個人の中での位置づけが変わることで出来事の意味が変化するとひとつに考えられています(白井, 2008)。過去をどう感じるかに関連して、近年、ノスタルジア(nostalgia)という概念が心理学では注目されています。ノスタルジアとはそもそもは帰還の切望の苦痛というような意味であり、いわゆるホームシックとほぼ同義の意味を持っている言葉だったと川口(2011)は述べています。ノスタルジアは、個人的体験の記憶、つまり自伝的記憶が深く関わっていると考えられる個人的ノスタルジアと、個人を超えた社会的側面に着目した歴史的ノスタルジアなど、幾つかのカテゴリーやレベルに分けられますが(e.g., 川口, 2011)、個人的ノスタルジアに関する研究が心理学ではここ 10 数年増加しています。

心理学領域においてノスタルジアとは、“a sentimental longing for one’s past”であり、過去への憧れ(思慕)と、その過去がもう体験できないものであるという哀しみが入り交ざった複雑な感情を意味します(長峰・外山, 2020)。重要な他者との情緒的つながりが含まれている自伝的記憶を対象として経験されやすいことが指摘されています(長峰・外山, 2019)。ノスタルジアは、ポジティブ感情、自己肯定感の維持・向上、社会的絆の強化、人生の意味づけなどの機能を持ち、自己連続性を高め、ウェルビーイングの向上や心理的適応をもたらすことも指摘されています(古谷他, 2019; 長峰・外山, 2020)。過去を振り返るだけではなく、現在や未来に対する肯定的な態度や動機づけも生み出すと考えられています(長峰・外山, 2019)。

このようなノスタルジアに関する研究もまた、過去を“過去化”することや時間を“区切る”ということにひとつの示唆を与え得るものではないかと考えられます。

## References

- 古谷 奈菜他 (2017). 若者のレトロ商品における利用動機に関する研究—使い捨てフィルムカメラを対象としたノスタルジアと新奇性からの検討— プロモーション・マーケティング研究, 12, 7-21.
- 川口 潤 (2011). ノスタルジアとは何か—記憶の心理学的研究から JunCture: 超域的日本文化研究 (名古屋大学), (2), 54-65.
- 長峰 聖人・外山 美樹 (2019). ノスタルジアが時間的態度に与える影響—本来性を媒介要因として— 教育心理学研究, 67, 190-202.
- 長峰 聖人・外山 美樹 (2020). ノスタルジアと自己-出来事関連性との関係—心理的成長感と社会的つながりを考慮して— パーソナリティ研究, 28(3), 198-207.
- 白井 利明 (2008). 時間的展望と自伝的記憶 佐藤 浩一他 (編) 自伝的記憶の心理学 (pp.138-148) 北大路書房

